

# 便失禁

# 仙骨神経刺激療法も

## 京都通信病院

意思に反して便が漏れる「便失禁」で、心臓のペースメーカーのような刺激装置を尻に埋め込み、肛門などの運動、知覚の神経をつかさどる仙骨神経に持続的に電気刺激を与える治療法が近年始まっている。診察をためらい、おむつなどで対応する人が多いが、担当医は「治る可能性がある」と知ってほしい」と強調する。

(鈴木雅人)

人以上が悩んでいるというデータもあるが、同病院は「恥ずかしくて受診しづらい人が多いのではないかと」とした上で、「治療すれば臭いを気にせず安心して外出などを楽しめる」と伝えたい」と話している。

便意や尿意をまったく感じられず、おむつを使っていた79歳の女性は、京都通信病院（京都市中京区）で仙骨神経刺激療法の手術を受け、トイレで排便、排尿をできるようになった。縦4センチ、横5センチ、厚さ0.7センチの刺激装置を埋めた尻の傷も目立たず、ほっとしたという。「安心して外出できるようになり、気持ちが明るくなった」と医師に語った。

便失禁は肛門の括約筋などの筋肉が緩み、緊張状態を維持できなくなってしまう。加齢に伴う括約筋機能低下のほか、直腸がんなどの手術後に発症することもある。重症だと1日に十数回も失禁するという。

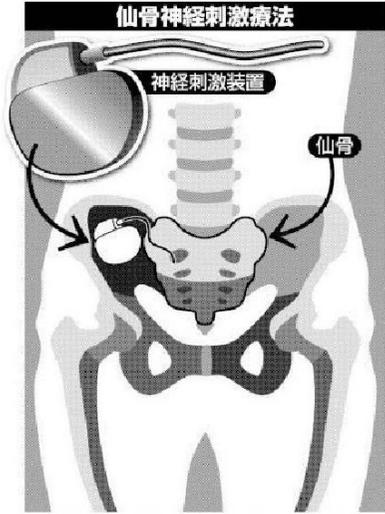
同病院では便を固くする食事指導や薬物療法、骨盤の底の筋肉を鍛える体操の指導などを行っても効果が乏しいなど、比較的重度の

## 「治る可能性を知って」 装置埋め込み式

患者に仙骨神経刺激療法を実施する。専門医が少なく京都府内で実施する医療機関はわずかだが、海外では20年以上前から尿失禁を含めた治療法として効果が認められ、日本では2014年に保険適用された。臨床試験では8割の患者に効果があったという。

自律神経で働くために体操で鍛えることのできない肛門内側の括約筋を含め、仙骨神経を微弱な電流で刺激して筋肉の緊張状態をつくる仕組みだ。電極を仙骨部に埋め、体外式の装置から試験的に刺激を与えて1〜2週間ほど効果を確認。有効ならば、刺激装置を尻に埋め、電極と接続する。入浴など通常の生活に支障はなく、効果が不十分であれば電極を抜き取り、元の状態に戻ることもできる。

学会報告によると、外来では60〜70代の高齢者が多く、受診者の7割を女性が占める。女性は骨盤を下から支える筋肉が出産により緩みやすいためという。全国で500万



2018年9月11日 京都新聞掲載